

京都

リハビリテーション医療・介護 つなごう! フォーラム 2026

リハビリテーション医療と介護 2026.2.7(土)▶2.8(日)

会場 京都産業会館ホール
(四条烏丸)

主催 京都リハビリテーション医療・介護フォーラム

▶参加費

会員:2,000円 非会員:2,500円

▶フォーラム ホームページ

<https://www.krforum.com/>



参加方法

事前の参加登録と参加費のお支払いにご協力ください(当日参加も可能です)

会員 2,000円 (京都リハビリテーション医療・介護フォーラム) 非会員 2,500円

※入会方法は中面をご参照ください



2026年2月7日(土)

	第1会場(2F北室)	第3会場(2F南室)
14:00	1日目開会式	
14:10	もっと知ろう お隣の専門職	
15:40 15:50	シリーズ 身体拘束最小化のその先へ —現場の葛藤や医療事故、 業務負担をめぐる対話—	自動車運転と リハビリテーション 京都と滋賀の現状を生討論!
16:50 17:00	地域から発信! 家族の物語から地域へ —包み込む社会をつくる TOBIRAの挑戦—	地域から発信! インクルーシブクッキング
17:15 17:20	シリーズ フォーラム版「リハサマリー」 作っちゃいます。続編	高次脳機能障害を地域で支える —言語聴覚士と看護師の 連携のあり方—
18:20		

第2会場(2F中室)

両日終日、ワークショップ開催中

2026年2月8日(日)

	第1会場(2F北室)	第3会場(2F南室)
09:00	2日目開会式	発災時に向けて リハビリテーション関連職・ 介護職がどう連携するか
09:05	私たちの、働き方!改革	
10:05 10:15		基本の技企画 足を護る
11:00 11:10	今年もやります生討論! 3	チームで支える 在宅心不全ケアの一步先
12:00	一般演題発表(第2会場・第3会場)・休憩(軽食配布)	
13:40	リハ病院院長が ブレイクダンスサーだったら	リハビリ×漫才
13:50	ヌーンタイムレクチャー つなごう!医療・介護現場に おける疼痛対策	当事者企画 障がい者が地域で生きるために 〜私たちが医療・介護職の 人たちに望むこと〜
14:50 15:00	同じチーム、でも見方はいろいろ 〜医療ソーシャルワーカーの 立場から〜	摂食嚥下障害ケアにおける 意思決定支援 〜食べることをどう支えるか〜
16:00 16:10	みんなで世話人と語ろう	
	閉会式	
16:40		

三上 靖夫

(京都府立医科大学リハビリテーション医学教室)



超高齢社会となったわが国では、リハビリテーション医学・医療が健康寿命延伸の鍵を握るといわれていますが、医療機関の機能分担によってリハビリテーション医療は急性期、回復期、生活期の各フェーズに分けられています。生活期は介護領域と密接な関係にあり、各フェーズに多くの専門職種が関わっています。リハビリテーション医療と介護を切れ目なくスムーズに展開させるためには、各フェーズ間、同職種間および多職種間の相互理解に基づく連携と協働が必須です。

しかし、多くの医療・介護の現場で十分な連携がとれているとは言い難いのが現状です。そこで、職種を越えた交流や議論の場を設け、多職種で、全世代の人々に対するリハビリテーション医療・介護を充実させ、福祉とも連携し地域包括ケアシステムの充実に寄与することを目的として、本会は設立されました。

本会は、医師はもちろん、京都府理学療法士会、

京都府作業療法士会、京都府言語聴覚士会、京都府看護協会、京都府介護支援専門員会、京都社会福祉士会、京都府介護福祉士会、京都医療ソーシャルワーカー協会、京都府訪問看護ステーション協議会などの各職能団体に所属する専門職によって構成されています。医療・介護の現場では、多くの職種が関わっていますが、お互いの職種の役割や得意とすることを良く理解できておらず、そのために連携が十分とれていないケースが多いのが現状です。

昨年のフォーラム2025では、この趣旨に賛同した450名の超える参加者が集い、連携の輪を広げることができました。今回のフォーラム2026では、さらに連携を強めるために、「つなごう！リハビリテーション医療と介護」をテーマとしました。

参加者にとって、診療や介護にフィードバックできる、実りのある会とすべく、鋭意準備を進めております。みなさまのご参加をお待ちしております。

入会のご案内 京都リハビリテーション医療・介護フォーラム

この機会に、入会をお願いします。

- 京都府内でのリハビリテーションに関する情報をお届けします。
- 毎年開催するフォーラムの参加費が割引になります。
- 各種イベントを予定しています。



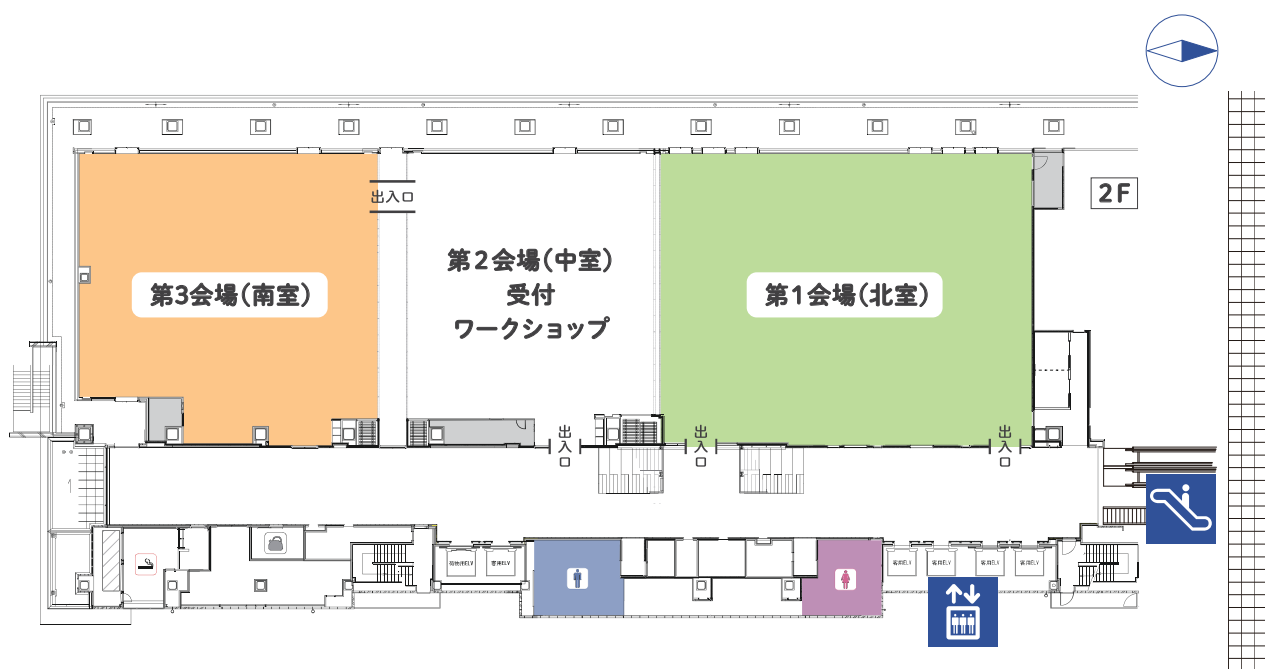
年会費 2,000円（銀行振込） 入会方法はホームページをご参照ください

会場案内



お越しの際は、電車バス等の
公共交通機関をご利用ください

- 電車 市営地下鉄烏丸線「四条駅」下車
北改札口より、徒歩 2 分
阪急京都線「烏丸駅」下車
西改札口より、徒歩 2 分
(地下鉄・阪急/地下道 26 出口
京都経済センターB1階入口直結)
- バス 四条烏丸バス停前(南側)



後 援

京都府

一般社団法人京都府医師会

一般社団法人京都府理学療法士会

一般社団法人京都府作業療法士会

一般社団法人京都府言語聴覚士会

一般社団法人日本義肢協会 近畿支部

一般社団法人日本義肢装具学会

公益社団法人京都府看護協会

一般社団法人京都府訪問看護ステーション協議会

一般社団法人京都社会福祉士会

一般社団法人京都医療ソーシャルワーカー協会

公益社団法人京都府介護支援専門員会

一般社団法人日本生活期リハビリテーション医学会

(一部予定)

2026.2.7[±]

第1会場(2階北室)

第3会場(2階南室)

14:00 1日目開会式

14:10 もっと知ろう お隣の専門職 1-1-1

もっと知ろうお隣の専門職、本企画も今大会で3回目となりました。フォーラム2026 1発目の大事な企画となります。登壇者がずば抜けて多い企画のひとつであり、企画名の通り、多くの専門職を知る機会となります。

今回はそれぞれの専門職より、「実はこんなこともやっています」「お隣の専門職に知ってほしい誤解あるある」「お隣の専門職にありがとう」といったキーワードで企画を展開していく予定です。より多職種のことを知る機会になると思いますので、皆様初日から会場へ足を運んでいただきますよう、よろしくをお願いします。乞うご期待ください。

登壇者

OT 江川 大地 DR 山中 彩 DDC 大河 貴久 PT 井口 聡 OT 渡邊 聡
ST 堀江 祐希 NS 中島美代子 NS 勝本 孝子 SW 千葉 晃央 NSW 久須窪充仁
CM 村上 晶之 CW 北川 美江 PD 峯松亜由美 RD 松木さなえ

15:40

15:50 シリーズ 身体拘束最小化のその先へ —現場の葛藤や医療事故、 業務負担をめぐる対話— 1-1-2

身体拘束最小化の取り組みは、「その人らしく生きること」を支えるため、急性期・回復期・生活期を問わず重要な視点です。昨年は多職種の立場から実践例を紹介しましたが、1年を経て現場では安全との葛藤や業務負担、医療事故への不安が浮き彫りになっています。拘束を減らすことで本当に幸せになっているのは誰なのか——その問いを多職種で共有し、改めて身体拘束最小化の意味を考え直す機会としたいです。

登壇者

NS 細越万里子 NS 高野 佳子 NS 塚野 愛 MT 安達 紗代 NS 西岡さおり
DR 酒井 達也 NS 中島美代子 NS 戸倉さゆり SW 森 賢一 NS 川井 倫子
SW 永田 貴久

16:50



自動車運転と リハビリテーション 1-2-1 京都と滋賀の現状を生討論！

近年、高齢者や障がいのある方の自動車運転支援は、生活の再構築を支える重要なリハビリテーション領域として注目されています。

本シンポジウムでは、「自動車運転とリハビリテーション」をテーマに京都、滋賀の地域特性を踏まえた現状と課題を共有します。医師、認定看護師、作業療法士など多職種の登壇者が、それぞれの立場から実践や連携の取り組みを紹介し、今後の支援体制の方向性を考えます。自動車運転支援に関わる専門職の視野拡大を目指す討論にぜひご参加ください。

登壇者

OT 奥野 隆司 DR 富田 素子 OT 堀江 勇太 NS 日下部桐子 OT 富田 啓介

第1会場(2階北室)

17:00

地域から発信！

1-1-3

家族の物語から地域へ

一包み込む社会をつくるTOBIRAの挑戦ー

宇治市に住む3人の子どもの母、今堀夕香里です。長男が脳腫瘍を発症したその日から、社会の中で多くの壁に直面しました。息子が障がいを抱えてからの社会。医療や教育、人間関係を通して感じた『違和感』。

その違和感は大切なことの気づきとなり、私自身の人生にとって大切なキーワードとなりました。

その経験から始まったTOBIRAプロジェクトでは年齢・性別・障がいの有無に関係なく、すべての人が「自分らしく、そのままでもいい」と思える地域、共生社会を目指した活動をしています。

登壇者

地域 今堀夕香里

17:15

17:20

シリーズ

1-1-4

フォーラム版「リハビリサマリー」

作っちゃいます。続編

昨年度、フォーラムにて「フォーラム版「リハビリサマリー」作っちゃいます」の企画をスタートさせました。

「連携」という大義名分で「サマリー」を作成して当たり前という流れに対し一度立ち止まり、検討する時間を作れたらと考えました。

昨年度は「サマリー」などの書類業務が残業に繋がりが「働き方改革」から逸脱しているという問題提起を行いました。それに対し、病院として「サマリー」のあり方や業務改善に繋がった所もあったようです。

今年度は、もっと効率的にするためにはどのような手段があるのだろうか？効率的な連携を目指し、もう一歩踏み出し皆さんと議論を深める時間になればと思っています。

登壇者

OT 伊藤 和範 PT 石田 俊介 OT 松井 善也 ST 江口瑠美子 CM 村上 晶之

18:20

第3会場(2階南室)

地域から発信！

1-2-2

インクルーシブクッキング

インクルーシブクッキング。それは障がいの有無や年齢などを問わず誰もが参加できるクッキング。いろんな人が食べやすいやわらかメニュー(嚥下食)を作って共に食卓を囲む。

やわらかメニューの調理法について学ぶ料理教室としての役割だけでなく、コミュニティとしての意味合いも持つ。一緒に同じものを作って食べるという活動を通して互いの関係性を育むこと、「これなら自宅でも作れそう」「嚥下障害のあるあの人にも食べられそう」といった食の可能性を見つけることが目的です。

当日はサテライト会場(事前予約制、ホームページ参照)で五感で楽しむやわらかメニューのクッキングにチャレンジ！ぜひ、インクルーシブな食の体験をご一緒に。

登壇者

ST 笠井 幸子

高次脳機能障害を

地域で支える

1-2-3

一言語聴覚士と看護師の連携のあり方ー

本セッションでは、高次脳機能障害を抱える方への支援をテーマに、言語聴覚士と看護職がどのように協働し、よりよい支援を実践できるかを討議します。そして臨床でのリハ的介入や支援をいかに地域生活につなげるかを共有します。「サマリーから障害像は理解していても、生活への具体的な落とし込みに迷う」という臨床経験をもとに、言語聴覚士が見立てた障害像を看護ケアの現場にどう統合するか。さらに認知症を一括りにせず複合的な高次脳機能障害として捉え、両職種の見点を融合させることで生活の質向上につなげる連携のあり方を探ります。

登壇者

ST 吉村 貴子 ST 小嶋 優子 ST 堀江 祐希 NS 山田由香理 HNS 大橋 由基 NS 日下部桐子

DR 医師

DDS 歯科医

PT 理学療法士

OT 作業療法士

ST 言語聴覚士

NS 看護師

HNS 訪問看護師

SW ソーシャルワーカー

MSW 医療ソーシャルワーカー

CM 介護支援専門員

CW 介護福祉士、介護職

PO 義肢装具士

PHN 保健師

RD 管理栄養士

MT 音楽療法士

OA 事務職

2026.2.8日

第1会場（2階北室）

9:00 2日目開会式

9:05 私たちの、働き方！改革

2-1-1

昨年度に引き続き、本企画では、「私たちの、働き方！改革」をテーマに現場で実践している働き方改革の取り組みや、現状の課題や今後の展望等の紹介を予定しています。昨年度は勤務シフトの柔軟化、業務分担の見直し、ICTを活用した業務効率化など、現場での具体的な工夫が紹介されました。また、一方で制度面や人員体制の制約など、改革の障壁となっている現状も率直に語られ、会場からは共感や質問が多く寄せられました。現在、働き方改革に対する取り組みを行っている、またはこれから取り組みを考えている病院や施設、事業所があると思います。明日に繋がる企画になっておりますので、よろしくをお願いします。

登壇者

10:05

OT 江川 大地 PT 高橋慎太郎 UT 林 佳宏 NS 田村 さち子 OA 小林 啓治

10:15 今年もやります 生討論！ 3

2-1-2

病院間、病院と在宅間の情報共有・連携の実状と本音を共有し、異分野・多職種間の相互理解と現場運用の改善を目指す本企画、一昨年、昨年に続き3回目の開催となりました。今回の生討論のテーマは「共通言語」です。医療業界、介護業界、それぞれの職種・所属機関内で当たり前のように使用している「言葉」は、果たして多職種・他機関間での共通言語となり得ているのか…いろいろな場面で齟齬は起こっていないのか…(例)「アセスメント」「一部介助」「嚥下食」「略語・英語」 etc…

11:00

よく使用している言葉だからこそ統一できていないと、利用者の暮らしやサービスに影響します。多職種連携・協働にむけた情報の有効活用のため、使用している「言語」を検証したいと考えます。まず医療、在宅双方の現状を把握し、それらを「共通言語」とするための工夫や手段、プロセスを生討論していきたいと思います。

11:10

登壇者

PT 田後 裕之 CM 井上 基 DR 前田 博士 DOS 大河 貴久 NS 古川夕可子
NS 平石ひとみ PT 吉川 晋矢 OT 三谷 良補 ST 涌田 啓介 NSW 安岡 綾
SW 藤原 聡 CM 塚田 聡 RD 佐伯 美和 CW 榊原 学 PO 朝陽 静香

第3会場（2階南室）

発災時に向けて リハビリテーション関連職・ 介護職がどう連携するか

2-2-1

前年度は能登半島地震を振り返り、医療・保健・福祉間での連携をテーマに、活発な議論を交わすことができました。それを契機に京都府災害リハビリテーション支援協会（以下、京都JRAT）と京都府災害派遣福祉チーム（以下、京都DWAT）で協働し、2025年11月に合同研修会を開催する運びとなりました。その中で、災害支援における医療と介護の専門職の連携の重要性や課題が浮き彫りとなりました。その経験をもとに今年度は、前年度からの京都JRATと京都DWATの取り組みを知っていただき、今後の課題や連携について議論を深められればと思います。

登壇者

PT 万谷 健 ST 小嶋 優子 UT 平 十幸 OA 森元 駿平 CW 中村 朋子

基本の技企画 足を護る

2-2-2

「歩くこと」は健康と生活に重要で、その歩きを支えるのが足です。足のトラブルや痛みがあると外出の機会が少なくなり、心も体も元気を失いがちになってしまいます。

その歩きを支えるためには足を護ることが大切です。医師から足の構造・機能、疾患への治療、看護師から皮膚、爪のトラブルと対処方法や院内や訪問で行えるフットケアの方法、義肢装具士からは靴の選び方や調整方法など、それぞれの視点から行っているケアの方法、工夫点について紹介・共有して、安心して歩き続けるための支援ができるように情報共有の機会としたいと思っています。

登壇者

PO 飯塚 悠 NS 中島美代子 DR 大橋 鈴世 NS 嶋 あゆみ NS 中川 将人

チームで支える 在宅心不全ケアの一步先

2-2-3

在宅で介護保険サービスを利用する方の中には、「心不全」の既往をもつ方が少なくありません。心不全増悪の徴候に早めに気づき、早期受診することや、日々の活動、食事が再入院の予防につながります。このセッションでは、京都心不全ネットワーク協議会のスタッフ（医師・看護師・理学療法士・管理栄養士）が、在宅でできる心不全のチェック方法や、心臓に負担をかけない活動の工夫、減塩の簡単レシピなどをわかりやすく紹介します。利用者さんの「いつもの生活」を守るために、心不全ケアの一步先を一緒に考えてみませんか。

登壇者

PT 山端 志保 DR 栗本 律子 DR 白石 裕一 NS 藤原 博美 RD 岡田 典子
NS 櫻木 知子

第1会場(2階北室)

第3会場(2階南室)

12:00 一般演題発表(第2会場、第3会場)・休憩(軽食をお配りします)

13:40 リハ病院院長が ブレイクダンサーだったら

2-1-3

登壇者

ダンサー Dr 児玉 直俊

リハビリ×漫才

2-2-4

登壇者

リハビリボーイ (OT 吉川 友 PT 切山 雅貴)

13:50 ムーンタイムレクチャー つなごう!医療・介護現場に おける疼痛対策

2-1-4

疼痛は身体的苦痛のみならず、心理・社会的側面にも影響を及ぼし、生活の質を大きく低下させます。医療・介護の現場では、急性期から在宅まで切れ目のない疼痛対策が求められています。痛みに向き合うには、診断・治療に加え、観察・評価・支援の連携が欠かせません。

本講演では、疼痛の生理的メカニズム、慢性化の要因、そして多職種連携による包括的アプローチの重要性について解説します。各職種が専門性を活かし「つなぐ」ことで実現できる疼痛マネジメントの実際を共有し、地域と生活に根ざしたより良い疼痛ケアのあり方を考えます。

登壇者

Dr 池田 巧

当事者企画 障がい者が地域で生きるために ～私たちが医療・介護職の人たちに 望むこと～

2-2-5

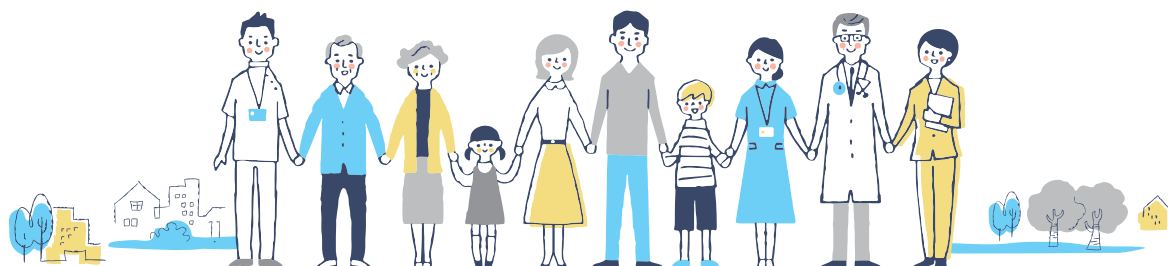
在宅医療の発展とともに、医療的ケアが必要な障がい者も病院ではなく地域で暮らすことが可能となり、その気になれば24時間介助を利用して一人暮らしだってできるようになりました。病院では味わうことのできない「自由」を、地域で存分に謳歌している障がい者が増えてきました。

しかし、本人はどこか置いてけぼりで、周りの家族や支援者中心でことが進んでいるようなケースも。本人の意思は一体どこへ?

障がい当事者として地域で自立生活をしている私たちの目線から、望む医療・介護の在り方についてお話ししたいと思います。キーワードは Nothing about us, without us(私たち抜きに、私たちのことを決めないで)

登壇者

地域 大藪 光俊 地域 野瀬 時貞



Dr 医師

Dds 歯科医

Pt 理学療法士

Ot 作業療法士

St 言語聴覚士

Ns 看護師

Hns 訪問看護師

Sw ソーシャルワーカー

MSW 医療ソーシャルワーカー

Cm 介護支援専門員

CW 介護福祉士、介護職

Pd 義肢装具士

Phn 保健師

Rd 管理栄養士

Mt 音楽療法士

Oa 事務職

第1会場(2階北室)

15:00

同じチーム、 でも見方はいろいろ ～医療ソーシャルワーカーの立場から～

2-1-5

今や当たり前のように医療機関に配置されるようになった医療ソーシャルワーカーですが、その役割としては、退院先を調整する人…など、限局的に捉えられがちかもしれません。

チーム医療において唯一の社会福祉の専門職として存在する医療ソーシャルワーカーが、実際どのような視点、どのようなアセスメントで支援を行っているのか、一つの事例にみなさんと一緒に向き合う中で、改めてその役割やチームに存在する意味を知り、感じていただく機会になればと企画しました。ぜひ多職種のみなさんにも参加いただき、医療ソーシャルワーカーへの理解を深め、明日からの支援に役立てていただきたいと思います。

登壇者

MSW 森山あゆみ MSW 島田 浩 MSW 出口 貴能 MSW 新保 一葉
MSW 久須窪充仁

16:00

16:10

みんなで世話人と語ろう

2-1-6

京都リハビリテーション医療・介護フォーラムは、各団体からのメンバーが「手づくり」で企画・運営をおこなっています。参加のみなさんで、昨年・今年を踏まえ、これからのフォーラムのありたい姿・あるべき姿や、次年度に向けた企画を語り合いませんか？また、京都という街であらゆる方々が一生懸命生き活きと活躍して暮らしていただくために「人、物、情報、場所(環境)」を必要な所に滞りなく提供していくにはどうすればいいのかを皆様と一緒にざっくばらんに語り合いたと思います。フォーラムの締め企画として屈託のない意見交換ができることを楽しみにお待ちしております。是非ご参加ください。よろしくお願いします。

登壇者

世話人一同

16:40

閉会式

第3会場(2階南室)

2-2-6

摂食嚥下障害ケアに おける意思決定支援 ～食べることをどう支えるか～

「食べること」は、命を支えるだけでなく、人生の楽しみや尊厳を象徴する、生活の質にも深く関わる重要な営みです。摂食嚥下障害のケアでは、医療的な安全性と本人・家族の願い・希望との間で悩ましい選択、揺れる選択に迫られ、意思決定が複雑化する場面も多く、本人や家族の思いに寄り添った支援のあり方が問われます。

本フォーラムでは、医療・介護・福祉の視点から多職種が連携し、本人や家族の思いを尊重した意思決定支援のあり方やQOLを高める支援とは何かを考えます。後半には、ディスカッションを通じて、「食べること」を支えるケアの可能性を広げ、明日からの現場実践に活かせる具体的なアプローチを参加者の皆様と共有します。

登壇者

NS 戸倉さゆり NS 川井 倫子 NS 細越万里子 DR 櫻井 桃子
NS 伏田 敬祐 NS 土井 千春 NS 牛田 美里 MSW 向坂亜友美
MSW 久世 晴香 SW 谷口 明夫

